



真っ赤なイソバナの下に魚たちが集う（インドネシア）



阪神地区夏季教育研修会での講演



おとぎ話のような世界が広がる（フィリピン）



マナティとツーショット



Kagii Yasuaki
鍵井 靖章さん

Underwater Photographer
水中写真家
Clé et Photos 代表

川西市出身。神奈川県在住。命であふれる海の世界を「色」で表現することをテーマに、自然体の生き物を撮影する。日本写真協会新人賞、日経ナショナルジオグラフィック優秀賞などを受賞。また、情熱大陸、クレイジージャーニー、探偵ナイトスクープなどテレビ番組にも多数出演している。写真集をこれまでに14冊出版。市内では4回目となる写真展「Blue+」を9月23日（祝）から30日（日）まで「wedge」（火打2-15-24）で開催予定。

厳しい海の命の物語

写真を通して世界に伝える

川西で出会った海の宇宙に魅入られ「色」で命を写す

「なぜ水中写真家をめざそうと思ったのですか？」

大学3回生のとき、ふと目に入った川西阪急の展示に釘付けになりました。海の生き物の写真なのに、そこに宇宙を感じたんです。一気にその魅力に引き込まれましたね。撮影したのは当時川西に住んでいた水中写真家、伊藤勝敏さん。写真もダイビングも未経験の私でしたが、無事、押しかけ弟子になることができました。あの時、勇気を出して本当に良かったと思います。

「印象深い撮影シーンはありますか？」

東日本大震災後の岩手の海が印象に残っていますね。命と色が失われた海を撮影して3日目、1匹の小さなダンゴウオを見つけたんです。あの瞬間の驚きと感動は忘れられません。強く生きる小さな命に励まされ、希望を抱きました。

その後、同じ海で卵を守るダンゴウオに出会いました。そろそろ生まれるぞと期待しながら、翌日撮影しに行ったんです。すると襲ってくる貝から卵を守ったまま、親のダンゴウオが息絶えていました。私にも子どもがいます。親として、その姿に敬意を払わずにはいられません。海の生き物が教えてくれることは多いですね。

「今後発信したいことはありますか？」

海洋のごみ、中でも分解に数百年から数千年かかるプラスチックの問題を懸念しています。これまでもごみと共生する生き物や、漁網に絡まり絶命する魚などを撮影してきました。今後ごみ問題についてさらに発信していく必要性を感じています。

CHECK & QUIZ

次の空欄（○の中）を埋めてください。

1：特集 詐欺を○域で防ぐ 2：猪名川花火大会は8月○日（開催）

正解者の中から市特産のいちじく1箱を5人に差し上げます。8月16日（日）に開催するいちじく即売会の会場で引き換え（正解者多数の場合は抽選。当選者のみにハガキを送付）。応募方法：市ホームページ（右の2次元コードからアクセス可）から必要事項を送信するか、ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、興味のある記事と感想を書き、8月8日（水）（消印有効）までに〒666-8501・秘書広報課「クイズ」係へ。

※7月号の正解は（生）（キ）で、65件の応募がありました。



6月末現在の人口



男……………75,009人（- 59）
女……………83,406人（- 4）
計……………158,415人（- 63）
世帯数…69,776世帯（- 6）